令和７年５月 12 日　朝礼
施設長　柳川右千夫

一羊館の「話し合いの３原則」の再確認

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！
一羊館の行動指針
私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のＱＯＬ・職員のＱＯＬ・健全経営の３立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

話合いの３原則
１：相手の意見は否定しないでしっかり聞きます。
２：自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現でいいます。
３：正解は一つでないことを自覚して自制します。

先月は、「一羊館の理念、行動指針の再確認」についてお話ししました。
今月は、その続きで、「話合いの３原則」について、再確認していただきたいと思い、お話しすることにしました。これは、前施設長の桑原先生が作って頂いた３原則で、私も踏襲させていただいています。
まず、「**しっかり聞くこと**」が最も重要です。「話し方において一番大切なことは、聞くことである」ということです。（話し方は「聞き方が９割」：永松茂久著「人は話し方が９割」から）
次に、「**否定しない**（否定すると、自由に発現するモチベーションを奪ってしまう。大切なことは、意見や感想がどんどんでてくる場にすること）」、「**ポジティブ表現**（前向きな話は人を元気にします。人をほめること、感動した話をすること、現状をよくしようとすることなど）」が大事です。表現の中には、「うなずく」なども大事な所作です。
最後に、医療、看護、介護の場では、いろいろな状況があり、どれが正解かわからないことが多々あります。画一的ではないとも言えます。それを考慮して聞きます、話します。